

令和 5 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 6 年 3 月 18 日
市立札幌大通高等学校

スクール・ミッション

- 生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、自らが目標に向かって挑戦することができる学びの場
- 生徒一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、自らが主体的に生き方や将来を探究することができる学びの場
- 生徒一人一人の社会性を育み、自らが積極的に考えを表現し、他者との豊かな人間関係を構築することができる学びの場

スクール・ポリシー

- 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
 - ＜生徒の皆さんに目指してほしい資質・能力＞
 - ①自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる
 - ②意欲をもって主体的に学習し、興味・関心を深く探究できる
 - ③主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越え、社会の担い手として自立できる
 - ④多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる
- 教育課程の編成及び実施に関する方針 カリキュラム・ポリシー
 - ＜本校での学び＞
 - ①生徒の様々な学習状況に対応するため、多様な学びの場を設定する
 - ②生徒の能力に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の定着を図る
 - ③生徒の習得した知識や体験等を応用し、創造性や課題解決能力の育成を図る
- 入学者の受け入れに関する方針 アドミッション・ポリシー
 - ＜求める人物像＞
 - ①学ぶ意欲にあふれる人
 - ②人とのコミュニケーションを大切にすること
 - ③仲間と共に積極的に学校づくりに参加できる人

本校の重点目標

- (1) 自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる生徒を育てる。
- (2) 意欲・熱意を持って主体的に学習し、興味・関心を深く探究する生徒を育てる。
- (3) 主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越える逞しい生徒を育てる。
- (4) 規範意識を身につけ、勤労を尊ぶ、有為な社会人として自立していける生徒を育てる。
- (5) 多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総合	・大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活を送ることができている。 ・高校入学前と比べて、友人関係の広がりや活動の変化、人間的な成長を感じる。	A	「安心して学校生活を送ることができている」の生徒の回答は87%（昨年度同値）であり、コロナ禍前の数値と同等である。逆に生徒回答の13%が学校生活への安心感が満たされていないと読み取れる。学校生活の中で安心感を得られる場面を作れた生徒が多いが、安心感が満たされない生徒に対してのアプローチについては今後検討し、安心して学校生活が送れるような取組をすすめていきたいと考える。 「入学する前と比べて友人関係が広がった」の生徒の回答は81%、「入学する前と比べて活動的になったと思う」の保護者の回答は79%であった。コロナ禍の制約が残るも通常の学校生活に戻ってきており、その中で生徒間の交流もおこなわれてきている現れと考えられる。 引き続き、不安や悩みを抱えた生徒への寄り添いなどにおいて、より安心感を高める方策を検討し、家庭や校外機関と連携した支援の在り方について、次年度への取組に引き継いでいきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	・一割以上の生徒が安心して学校生活を送ることができていない現状に対して「今後検討し、取り組みを進めていきたい」では具体性に欠けます。いつどのように検討し、いつまでに実行に移すのか、管理職を中心に具体的な手立てを明確に打ち出してもらいたい。 ・一人一人が自分らしく過ごせることを生徒も保護者も一番に大通高校に求めていることだと思われる。自分の個性や能力を伸ばしながら目標に迎えるようにというスクールポリシーにも関わることであったり、「安心・安全」は学校生活の基盤となっていくことから、引き続き大切にしていってほしい。 ・生徒の安心感とは何か、もう少し掘り下げられたら学校としての対応も更なる確なものになっていくと思います。具体的には、家以外での居場所ができて安心感を実感したのか、学校の中で居場所ができて安心できたのか、または、人間関係が良好で安心感を得たのか様々あると思いますのでその辺りを知りたいところです。引き続き学校においては様々な生徒に寄り添いながらサポートを行っていただきたいと思っています。 ・本校は社会に近い学校として歩んできております。ここ数年の高倍率によりその姿が少し変わってきているように思います。特に赴任間もない教職員の方々は大通高校の役割、使命をよく理解していただきたいと思っています。大通高校の教育環境は継続性が重要になってきますので教職員の異動が運営に影響が出ないように、しっかりと学校の理念を理解していただき取り組んでいただきたいと思っています。				
学習	・多くの生徒が、授業に出るのが楽しみで、わかり易い授業が多く、授業内容を理解している。	B	「わかりやすい授業が多い」の生徒の回答が93%、昨年度79%から14%増であった。「多くの生徒が授業内容を理解している」の教職員の回答が69%（昨年度67%）であった。また、「授業に出るのが楽しみという科目がある」の生徒の回答が77%（昨年度73%）、「授業に出るのを楽しみにしている生徒が多い」の教職員の回答が59%（昨年度58%）であった。生徒と教職員の認識の違いが大きい状況である。 保護者の学習に関するニーズも「学び直し」（61%）「高い学力」（57%）と昨年度同様、保護者から見た生徒の学習ニーズが分散している傾向がみられる。 基礎基本の定着を目指しながら、生徒の学習ニーズに対応した授業改善、ICTを活用した授業実践の研究、「指導・学びと評価の一体化」を踏まえた観点別学習評価の充実など、生徒の学習活動と学びの意欲の充実に向けた取組を、昨年度に引き続き深めていきたい。	A	B
学校関係者評価者による意見	・生徒と教職員回答の違いが出る要因には、「わかりやすい・楽しみと感ぜられる授業を展開できたのか」という教職員の方の自己反省という要因もあり得ると考えられる。「わかりやすい授業が多い」との生徒回答93%は、多様な生徒を抱える大通高校としては相当高い数字と考えられ、今後も多面的な取り組みの継続が必要と考える。 ・何より重要なのは、学びの意欲の充実だと思いますので、アンケート結果だけでなく、授業参加率という量的評価も公表願います。 ・生徒と教職員の認識の差について、もう少し検証してもよいのではないかと。「楽しい、わかる、できる」授業とは？の分析を深めることで新たな改善策が見えてくるように思う。授業の中で生徒自身が自分なりの課題を見つけたり、学んだことを活かしたいという学びの循環が生まれることが理想である。 ・わかりやすい授業が多いことは喜ばしいことだと思います。教職員の方々日々努力されている結果だと思います。楽しい授業の項目については生徒達は純粋に楽しみと感じていることに対し、教職員側は出席率や授業態度などからの評価なのかなと思います。であるならば、乖離が大きいことについては理解できます。保護者のニーズ分散についてはここ数年の倍率にも見られる通り学力の高い生徒の入学が増加したことも影響していると考えますが本校は多種多様な生徒が学ぶ社会に近い学校ですのでバランスよく進めていただきたいと思っています。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
キャリア・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が色々な社会体験（ボランティア、職場体験等）をする機会を増やし、仕事や社会の仕組みについて学ぶ機会が多い。 「総合的な探究の時間」「キャリア探究」など、本校のキャリア教育の内容を理解している。 授業や学校行事で聞いた、進路について話を参考にしている。 	B	<p>「目標に向かって挑戦し、主体的に自己の生き方や進路について探究し、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる」という重点目標のもと、「総合的な探究の時間」「キャリア探究」において様々な取組を行っている。</p> <p>インターンシップをはじめ多くの進路探究的な学習活動はコロナ禍前の状況で実施できている。「授業や学校行事で聞いた進路について話を参考にする」の生徒の回答が72%と昨年度と変化はなく、多くの生徒の進路志向に資していると考えられる。</p> <p>生徒のキャリア形成に資する取組として「キャリア探究」等の学校設定科目を設置し、生徒個々の関心を引くような多様なプログラムを紹介し履修を促している。履修生徒にはキャリア形成の視点での効果が見られており、今後はより多くの生徒に積極的な履修を促していきたい。</p> <p>本校のキャリア教育の内容と効果的な取組について、生徒のキャリア形成の視点から、生徒の意識づけを一層高め、生き方や進路についての自己の主体的な探究心をさらに高める方策を検討し取り組んでいきたいと考えている。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> 単なる進路選択にとどまらない、本人のキャリア探究に引き続き注力してください。 就労や進学に向けて、どう取り組むか自身で考えていけるような様々なプログラムや事業が工夫されて組み立てられていると思う。学校外の色々な人たちや機関との連携を今後も続け、生徒自身が多様な考え方や価値観を得ていけるようにしていくことが大切だと思う。 ここ数年ソクラテス探究に参加させていただいておりますが、そもそも目標がない生徒が多数おります。目標のない生徒に目標に向かってと声掛けをしたところで何も響いては来ないのではないかと思います。まずは、自分自身を見つめて自分には何ができるのか、何が得意なのか等自分の強みを理解したうえで進路について考えていくという流れが良いと思います。（すでに行っているかもしれませんが）すでに目標がはっきりしている生徒については具体的な指導を行い実現に向けた指導を行っていただきたいと思っております。 			
多様な支援と外部連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校で気軽に先生方と関わることができる。また、スクールカウンセラーなど、外部の人たちと接する機会が多い。 保護者や外部の人々が、学校運営に参加する仕組みがある。 さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対する、サポート体制がある。また、教員間で、情報交換がおこなわれている。 	B	<p>ドーリ・ブレイスや外部講師を招いての多くの取組は、従来の実施方法により工夫を加えながら実践している。「教員以外の外部の人たちと接する機会が多い」の生徒が43%（昨年度35%）と8%増であり、外部の方から受ける意識も徐々に高まっていると考えられる。今後はその実施機会を積極的に紹介していきたい。</p> <p>「気軽に先生と関わることができる」の生徒が74%、逆に「できない」が26%と昨年同様であった。個別面談などガイダンス対応の在り方など生徒支援の方策を検討していきたい。</p> <p>「さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対するサポート体制がある」の保護者は75%（昨年度67%）であった。多様な生徒の本校の支援を理解していただいている方が多い。今後は学校、保護者との共通理解を図り、生徒個々の支援の方策を考えたい。</p> <p>また、「保護者や外部の人たちが学校の運営に参加する仕組みがある」の保護者の回答が64%（昨年度55%）となっている。本校での取組について、積極的に発信し、保護者の皆様に積極的に学校の取組への協力を引き続きお願いしていきたい。</p>	A	B
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> ドーリ・ブレイスをはじめとして多様な支援体制は充実していると考えます。保護者がより積極的に参加出来るような取り組みを目指す必要がある。 ドーリ・ブレイスに関しては、教員と学校外人材とPTAの三者連携が以前より低調に見受けられるので、改善していきましょう。 学校だけではなく、地域社会の関係者が運営にかかわっていくことは、これからの学校教育に必要なことになっていく。もっと取組の成果を保護者とも共有し、先進的に取り組んでいることへの自覚をもっといただくとともに、好事例の発信に努めてほしい。 保護者、教職員以外の大人と接し多様な考えや意見を聞くことは生徒にとって非常に有益なことだと考えますので今後益々充実させていくことを願います。同時に保護者のケアについても重要と考えますので、保護者が学校と関わる機会を少しでも増やしていければと思います。そのためにはPTAと振興会が連携し保護者参加型の行事立案などが行えたら良いと思います。 			
生徒指導 特別教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 先生以外のスタッフ（カウンセラーやボランティア等）と関わる機会を多く持っている。さらに充実させる。 困った時や悩み事があるときに、相談できる大人がいる。 生徒の人間的な成長を感じる。 	B	<p>「自分の周りには、困ったことや悩み事があるときに相談できる大人がいる」の生徒の回答が65%であるが、逆に35%の生徒がそう思わないと読み取れ、その傾向は昨年度と同様である。教育相談や支援体制の効果的な対応や生徒の安心感を高める方策を、引き続き検討し実践したい。</p> <p>「入学する前と比べて自分が人間的に成長できた」の生徒の回答が80%（昨年度75%）であった。本校の特別活動や学習活動、キャリア教育の取組と生徒の意識がマッチしている割合が高まってきていると考えられる。より効果的な教育活動を検討し実践していきたいと考えている。</p> <p>生徒の学校生活についての保護者の回答で「のびのびと自由な学校生活」95%、「マナーや礼儀を身につけさせる機会」93%といずれも昨年度と同様であり、双方に保護者のニーズの高さが考えられる。</p> <p>本校に入学した生徒のさらなる人間的な成長につなげられるよう、学習活動や特別活動、キャリア教育等の場面でその視点を取り入れ、生徒一人一人を大切に教育活動の充実を図っていきたくと考えている。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見		<ul style="list-style-type: none"> のびのびと過ごせることと、マナー等の社会性を身につけることは、相反するわけではありません。生徒たちが多様な価値観に触れながら成長できる学校であるよう、引き続き期待し、応援しています。 個々が抱えていることは様々で、また解決の方策に対する考え方も色々なので、どのような場合でもSOSを出してよいという学校や教師との信頼関係をつくっていくことが大事であり、そうなるよう学校として努力されていると思う。保護者とも連携していくことで、家庭においても学校の支援体制について親子で認識や理解をってもらうことが今後さらにも必要ではないか。 35%の生徒は、「そうは思わない」というよりも相談できない内容という事の方が多いのではないかと思います。そうなるとなかなか自発的にカウンセリングを受けようという行動には結びつきにくいと思います。学校としても限界はあると思っておりますが一人でも多くの生徒が不安から解き放たれる様に今後も対応をお願いしたいと思います。保護者のニーズについては、本来家庭で行うことだと思います上記項目とつながりますが保護者のケアが必要だと思います。 			
大進高校として評価を受けて今後の課題		<ul style="list-style-type: none"> 今年度の自己評価の達成状況について、「総合」をA、「学習」「キャリア・進路指導」「多様な支援と外部連携」「生徒指導・特別教育活動」の自己評価の達成状況をBとした。様々な生徒に寄り添いながら、「必要な生徒が、必要な時に、必要な支援」に対応できるよう、生徒一人一人を大切に学校教育の推進、学校生活の安心感を高めるための支援やサポートおよびその方策を検討し、来年度以降の教育計画に反映していきたいと考えている。 学習活動や進路・キャリア教育では、生徒一人一人が学びの意欲を充実させ、多様な価値観や考え方を理解し、自分自身を見つめる自己探究を、多面的な学びの取組を通して触れながら成長できるための学校であるよう、その取組の拡充を図っていきたくと考えている。 「分らなかつたことが分かるようになる喜び」を学教教育の中で生徒と職員がともに分かち合い、実践したことが生徒と職員とでより充実感を共有できる取組になるよう、次年度に向けての教育活動の構築に取り組んでいきたい。 今後も保護者の皆様や地域・関係機関の皆様とともに、「生徒一人一人が大切にされているという実感」が生徒自身ももてるよう、その視点からの連携に積極的に取り組んでいきたいと考えている。 			

<評価> A:よく達成されている B:ほぼ達成されているが改善も必要 C:不十分である